

令和 6 年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標
中間評価（9月末実績）
年度末確定評価

施設名 埼玉県立自然の博物館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト（自己点検表）

II 目標や方針の設定

- 1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組の設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組の概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

埼玉県立自然の博物館の使命について

県立自然と川の博物館は、自然及び川と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集・保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する博物館です。

自然の博物館は、「過去から未来へ埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、自然資料を収集・保管し、調査研究して将来へ継承し、情報を発信します。

また、学習を支援して、自然に関心を持つよう人材を育成し、様々な人との連携・交流を進めます。

さらに、川の博物館と連携し、県内唯一の自然系総合博物館として、秩父地域から埼玉全域へと視野を広げ、県民の皆さんとともに考え行動しながら、旺盛な博物館活動を展開していきます。

- 1 自然史資料を収集・保管し、調査研究して、将来へ継承します（データバンク機能）
自然史分野を総合的に扱える県内唯一の博物館として、埼玉の自然とその変遷に関する生物・岩石・化石資料、自然と人との共生に関する資料を収集・整理・保管します。

また、これらの資料を調査研究し、埼玉の自然について明らかにしていくとともに、資料価値を高め将来へ遺します。

- 2 資料を活用し、多彩な情報を発信します（情報発信機能）
「過去から未来へ 埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、展示や教育普及活動などを通じて、県民をはじめとする広範な人々へ情報を提供します。

利用者の多様なニーズに合わせ、自然に親しむための情報や調査研究に基づく学術情報など、魅力的な情報を発信します。

- 3 学習を支援し、自然に関心をもつ人材を育成します（学習支援・人材育成機能）
学校や社会教育施設、地域社会を対象に、地域の自然や館有資料を活用した体験学習を推進・支援します。これらの体験学習や展示を通じて、人々の知的好奇心を刺激し、自然に関心をもつ人材の育成に貢献します。

- 4 様々な人々と連携・交流を進めます。（連携・交流・啓発機能）
自然に関心をもつ個人、地域社会、関係機関・諸団体と連携・交流を進めます。
こうしたネットワークを少しずつ広げながら、人・もの・情報が集まる博物館とすることにより、相互のレベルアップを図っていきます。

2 現状分析と課題の抽出

1 資料の収集・整理・保管

ア 令和2年度から「館有資料所在点検実施計画」に基づき収蔵資料点検を計画的に実施しているが、従前の計画では、全資料の点検終了までに長期間を要するため、重点化を図り迅速に取り組む必要がある。

イ 現在、自然系標本を積極的に収集してきた世代が高齢期を迎えており、学術的価値を有するコレクションの寄贈申出が多い状況にある。

新規資料を受け入れるためには、効率的な収蔵方法を検討するなど、収蔵スペース確保に取り組む必要がある。

2 資料を活用した情報発信

ア 生物系資料についてはGBIF等を通じて資料のデータベースを公開してきたが、取組が不十分である。

イ 資料のデジタルアーカイブ化に十分に取り組めていない。

ウ 学説の変化や新収集資料を反映させた常設展示更新を計画的に進める必要がある。

3 学校教育との連携

ア これまで出張授業や体験学習支援を積極的に行ってきたが、学校からのニーズに十分応える体制が整備できていない。受入方法や体制を見直す必要がある。

イ 学校授業で活用できるコンテンツ（動画・貸出用標本等）開発など、新たな学校教育支援の在り方について検討する必要がある。

3 チェックリスト（自己点検表）

(1) 全館共通項目（令和6年9月30日現在）

		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	3	
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3	
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	2	R9年度までの計画に基づき実施しており、今年度分は完了見込み。
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	3	
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか	2	R9年度までの計画に基づき実施しており、今年度分は完了見込み。
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化（画像を含めた）に取り組んでいるか	2	昨年度策定した資料画像化方針に基づき実施。今年度分は完了見込み。
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか	2	昨年度更新計画を作成したが、具体化が課題。
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	3	
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか（参加申込方法・プログラム内容・サポート体制等）	3	
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

情報発信	①	SNS 等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	
県民との協働・地域連携	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法（著作物、展示、講演、研究発表等）で公開しているか	3	
施設・アメニティ	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取組がなされているか	3	
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	3	
	⑥	展示室内の安全性の確保（監視員の配置・監視カメラの設置等）に努めているか	3	
施設の活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

(2) 館別独自項目（令和6年9月30日現在）

		未実施、又は取り組まれていない	1	
		実施しているが、取組みが不十分	2	
		実施、又は達成している	3	
項目	チェック内容		達成度	課題等
資料の保存・管理	①	新規登録資料について適切に保管されているか	2	収蔵スペースの確保が課題。引き続き第一収蔵庫（地学系標本）を中心に効率的な収蔵方法を検討。
	②	資料のデータベースが適切に作成・管理されているか	3	
	③	未整理資料について整理を進めたか	1	新規受入資料の整理や資料チェックを優先して実施。
特別展・企画展 事業の実施	①	目標・狙いを明確化した中・長期的な展示計画（川博の特別展企画含む）を策定し特別展・企画展を実施しているか	3	
	②	年間又は中期的にみて、幅広い年齢層やニーズを持った来館者が楽しめる内容になっているか	3	
	③	従来の資料のほか新しい資料など広い範囲の資料を活用しているか	3	
自然分野をテーマにした学習支援事業	①	体験を通じて自然を学ぶプログラムを取り入れているか	3	
	②	実物資料等を活用した学習支援プログラムを取り入れているか	3	
	③	多様な県民のニーズに応えられるプログラムを実施しているか	3	
	④	博物館や県内の自然遺産を活用したプログラムを実施しているか	3	
県立自然系博物館としての活動	①	県立自然系博物館として県内の施設・団体・個人に資する活動を行っているか	3	
	②	全国の博物館等の自然科学系分野の活動に協力しているか	3	
	③	県内の公共施設が行う展示・企画に協力しているか	3	
	④	職員の専門分野を活かして専門的な知識を情報発信をするとともに、レファレンスに的確に応えているか	3	
	⑤	行政等の文化財保護（天然記念物）・自然保護に関する組織の調査に協力し、専門的な立場から指導・助言を行っているか	3	
	⑥	県内の研究機関、研究者等と情報交換等を行い、その成果を県民に還元しているか	3	
学校の連携	①	学校教育における博物館の活用を促進するための研究・取組を行っているか	3	
	②	博物館資料を活用した強みを生かした取組を行っているか	3	

II 目標や取組の設定

1 中期的な目標及びそれに関する取組の設定

【中期的な目標】

(NO)	(目標)	(取組み期間)
①	計画的な資料整理の重点化	令和5～9年度
②	資料活用促進のための環境整備	令和5～9年度
③	主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化	令和5～7年度

【取組】

- ① 計画的な資料整理の重点化
 - ア 館有資料所在点検実施計画の実施（年間：26,000点）
 - イ 収蔵スペースの確保
配架の見直し等による効率的な収蔵方法の検討と計画の具体化
- ② 資料活用促進のための環境整備
 - ア 計画に基づくデータベース公開
 - イ 資料画像化の実施（1,000点）
 - ウ 常設展示更新計画の具体化
- ③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化
 - ア 計画に基づくコンテンツ（動画・貸出用標本等）の開発

2 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値	達成率	目標値の設定根拠
				達成値		特記事項
1	使命1-6 全般的活用	利用者数	年間入館者と アウトリーチ参加者数	71,210人	110.4%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				78,651人		
2	使命2 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	68,060人	100.3%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				68,277人		
3	使命1-6 全般的活用	利用者数	1日当たりの 利用者数	230人	109.1%	(年間入館者+アウトリーチ) ÷ 313日
				251人		
4	使命2・3 情報発信・活用	デジタル情報の 利用状況	HPアクセス数	1,007,370件	153.4%	基準値：699,976件 目標参考値：1,007,363件
				1,545,697件		
5	使命2 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	130件	90.0%	基準値：107件 目標参考値：126件
				117件		
6	使命2・6 活用・利用提供	経営努力	観覧料及び 事業等収入額	11,787千円	77.4%	*当該年度予算計上額
				9,128千円		

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値	達成率	目標値の設定根拠
				達成値		特記事項
1	使命1 データバンク	収集整理・保管	年間の点検資料数	26,000点	100.2%	点検実施計画による 中期的な目標による取組
				26,055点		
2	使命1・2 データバンク 情報発信	資料価値	館有資料の展示活用	3,640点	222.3%	基準値：3,635点 目標参考値：4,932点 現状を踏まえた目標値
				8,092点		
3	使命1・2 データバンク 情報発信	情報発信	レファレンス件数	420件	77.1%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				324件		
4	使命1・2 データバンク 情報発信	調査研究	県内の自然史に 関する論報文	22件	109.1%	基準値：22件 目標参考値：30件 現状を踏まえた目標値
				24件		
5	使命2 情報発信	常設展	アンケートでの 常設展満足度	90%	103.3%	基準値：96% 目標参考値：96% 現状を踏まえた目標値
				93%		
6	使命2 情報発信	特別展・企画展	アンケートでの 特別展・企画展満足度	90%	95.6%	基準値：95% 目標参考値：95% 現状を踏まえた目標値
				86%		
7	使命2 情報発信	デジタル情報の 利用状況	YouTube再生回数	9,960回	85.7%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				8,535回		
8	使命3 学習支援・人材育成	自然観察会 講座等	アンケートでの 受講者の満足度	95%	104.8%	基準値：97% 目標参考値：99%
				99.6%		
9	使命3 学習支援・人材育成	学校教育への支援	学校団体の 博物館支援件数	170校	95.6%	基準値：139校 目標参考値：170校 中期的な目標による取組
				166校		
10	使命3 学習支援・人材育成	社会教育への支援	社会教育関係団体 等への支援件数	35件	114.3%	基準値：17件 目標参考値：33件 現状を踏まえた目標値
				40件		
11	使命2・4 情報発信 連携交流啓発	SNSの活用	Xリポスト数	5,840件	64.1%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				3,742件		
12	使命4 連携交流啓発	協働・地域振興	各団体との 共催・協力イベント	6回	100.0%	基準値：6回 目標参考値：6回 現状を踏まえた目標値
				6回		

※ 利用者数＝常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数＝特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数

※ 基準値：過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値：基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値
目標値：目標参考値の1の位を繰り上げた数値

※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することと、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

3 取組みの概要

1 中期的な目標に係る取組

(1) 計画的な資料整理の重点化

ア 館有資料所在点検 26,055 点。

イ 第1収蔵庫（地質系標本）について、資料の配置換えを行った。

(2) 資料活用促進のための環境整備

ア 文化庁「人材派遣による博物館支援研究」の支援を基に、今年度の計画（データベースのWEB上での公開とジャパンサーチへの紐づけ）を見直した。結果「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」「古秩父湾の化石」「埼玉県の外来生物」の3テーマについて、資料画像 60 点をホームページ上に公開し、ジャパンサーチと連携した。

イ 資料画像化 1,000 点

ウ 常設展示の更新については、県のシンボルのタイトルパネル、立ち見ケースの照明 LED 化を実施。館内案内板・さわれる剥製 2 体及び、生物展示ホールジオラマ中の鳥類はく製 2 体の更新を行った。

(3) 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化

ア 博物館紹介動画を作成。植物・動物分野のコンテンツ（学校教育支援プログラム・貸出用標本等）を製作した。

2 常設展の充実

- ・岩畳を紹介する「長瀨の自然コーナー」の季節に応じた定期的交換。
- ・やさしい解説パネルを追加（岩石の成因マンガ作成、実習生作成の解説採用など）

3 特別展、企画展等の実施

(1) 企画展

- ・入間川流域の自然遺産調査から見えたこと（3/9～6/16、15,816 人）
- ・外来生物 in 埼玉！（6/29～10/14、30,154 人）
- ・長瀨自然遊覧（10/26～2/24、18,549 人）

(2) 特別展

- ・秩父鉾山の面影～ニッチツが所有した希代の鉾物標本群～（3/8～6/15、開催中）

(3) パネル展

- ・空から見た入間川（2/27～6/16）
- ・生痕化石の世界（6/18～10/6）
- ・標本作成の技動物編（10/26～2/24）
- ・埼玉の森をつくる木たち（2/4～6/15、開催中）

(4) 共催展

- ・第15回自然科学展～さいたまの動物たち～（7/20～8/29、2,820 人）

(5) 小学校巡回企画展

- ・寄居町立桜沢小で実施（6/24～7/5、677 人）
- ・寄居町立男衾小で実施（11/25～12/6、557 人）

4 講座・講演会等

(1) 自然史講座

- ・鉾物標本づくり（5/25、20 人）
- ・うんち比べ、足跡比べ（6/15、21 人）

- ・外来種でつくる昆虫標本 (7/20、29人)
 - ・研究発表会 (8/27、37人)
 - ・化石のレプリカづくり (9/21、21人)
 - ・身近な植物でお正月飾り (12/21、14人)
 - ・博物館の標本で動物のからだを調べよう！ (3/1、11人)
- (2) 観察会
- ・地衣さんぽ in 長瀨岩畳 (4/20、16人)
 - ・荒川で石の観察 (5/11、30人)
 - ・岩畳でトンボの観察 (10/5、雨天中止)
 - ・シダ散歩 in 日高 (11/30、15人)
 - ・岩畳地質観察会 (12/14、25人)
 - ・冬鳥観察会入門編 荒川で水鳥を観察しよう (1/25、17人)
 - ・冬鳥観察会中級編 入間川で野鳥を探そう (2/8、15人)
- (3) 講師派遣 (社会教育団体等) 40回、2,742人

5 学校との連携

- ・体験学習 17回 722人
- ・学校への出前授業 15回 978人
- ・学校利用受入れ 125校 6,092人
- ・虎岩 6校 510人
- ・物品貸出 3校
- ・小学校巡回企画展 2校、1,234人【再掲】

6 関係機関との連携

- (1) 長瀨町観光協会との連携
- ・青もみじライトアップ (5/1～6/9)
 - ・長瀨観光の日 (7/16) 事業協力
 - ・もみじライトアップ (11/8～12/1)
- (2) 名勝及び天然記念物「長瀨」指定100周年記念式典 (12/7)
- ・当館学芸員がトークセッションに出演
 - ・絵画コンテスト「埼玉県立自然の博物館館長賞」
- (3) 名勝及び天然記念物「長瀨」指定100周年記念関連事業
- ・長瀨町教育委員会と連携
 - 名勝及び天然記念物「長瀨」指定100周年記念特別講座 (3回)
 - ながとろ水まつり 学習ブース出展 (9/15)
 - ・ふるさと長瀨を愛する会との連携
 - 地質学の宝庫長瀨「地球の窓 長瀨」講演会 (10/12)
 - ・企画展「長瀨自然遊覧」開催【再掲】
- (4) 上長瀨駅及びその周辺活性化委員会との連携
- ・県民の日にキッチンカー出店 (11/14)
- (5) 寄居町教育委員会との連携
- ・巡回企画展を実施【再掲】

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

- 中期的な目標に関する取組は、概ね順調に実施できた。
 - ① 計画的な資料整理の重点化
 - ア 館有資料所在点検について、目標（26,000点）を達成（26,055点）。
 - イ 収蔵スペースの確保は計画に沿って整理を進めた。
 - ② 資料活用促進のための環境整備
 - ア データベース公開について、文化庁の「人材派遣による博物館支援研究」による専門家の技術的な支援の基に公開方法を見直し、3月中に試験公開を行った。
 - イ 資料画像化については、資料の撮影は目標数を達成。画像データベースへの入力が完了すれば目標の1,000点を達成した。画像データベースの運用が軌道に乗ったため、着実に資料のデジタル画像化とその管理体制が整った。
 - ウ 常設展示更新計画の具体化
 - 計画していたメガロドン解説パネルの更新及び館内案内図の更新は来年度実施することとしたが、その他は計画どおり実施した。
 - ③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化
 - 計画に基づきコンテンツ（動画・貸出用標本等）を製作した。また、全県への学校支援を目指したリモート授業実施体制の整備や更なるプログラムの充実を図るため、令和8年度の文化庁の Innovate MUSEUM 事業への応募を計画している。
- 利用者数（入館者及びアウトリーチ）について、年度当初の目標（71,210人）を達成（78,651人）。
 - 特に、今年度は、夏休み前に入館者の動向分析を実施し、職員全体で夏休み及びその後の入館者数増加のための対応策を検討し、取組を実施した。また、企画展「長瀬自然遊覧」では、成人の観光客をターゲットとした広報戦略を立て、長瀬町観光協会の協力を得て作成したパンフレットを地元商店街を中心に配布するなど、観光客の誘致を図った。
- 常設展満足度は目標（90%）を達成（92.8%）。特別展・企画展満足度は目標（90%）には未達（86.0%）。
- 学校団体の博物館利用件数については、目標（170校）をわずかに未達（166校）。体験学習、出前授業、学校利用受入れは、概ね昨年度と同等であったが、物品貸出が減少（R5実績9校→R6実績3校）。
- Youtube の再生回数は、新たに企画展関連の動画（2本）を公開したが、目標（9,960回）を未達（8,535回）。
 - X のリポスト数は、目標（5,840件）に未達（3,742件）。

(2) 課題と対応の方向

- 中期的な目標に関する課題と対応の方向
 - ・ 令和4年度、当館が重点的に取り組むべき課題として、課題解決に向けた目標と取組期間を設定(3年～5年計画)した。引き続き計画に従って取組を進めていく。
 - ① 計画的な資料整理の重点化(5年計画)

館有資料の所在点検は、資料データベースを公開する上での前提となるため、よりスピード感をもって進めていく必要がある。

第一収蔵庫のスペースの確保については、引き続き整理を進めて効率的な収蔵方法を検討し、5年目(令和9年度)に具体化することを目標として、予算の確保を検討していく。
 - ② 資料活用促進のための環境整備(5年計画)

資料データベース公開及び資料画像化については、方針に則り、計画どおり着実に進めていく。

特に資料データベース公開については、文化庁「人材派遣による博物館支援研究」において専門家より提案を受けたデータベース管理システムの導入について実現可能性を検討し、計画の見直しも含めて、柔軟に対応していく。

常設展示については、基本コンセプトを基に、計画を具体化していくとともに、予算の確保を検討していく。
 - ③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化(3年計画)

全県への学校支援を目指したリモート授業実施体制の整備や更なるプログラムの充実を図るため、令和8年度の文化庁の Innovate MUSEUM 事業への応募を計画しているため、取組期間を令和5～7年度から令和5～8年度に変更する。
- 中期的な目標以外の課題と対応の方向
 - ・ 今年度に引き続き「入館者の動向分析」に基づいた集客戦略を策定し、利用者や入館者の増加に努めていく。
 - ・ 特別展・企画展については、コンセプトやターゲット層を明確化した上で、展示内容、広報活動、オリジナルグッズ開発などを一体的に企画した魅力ある展示を実施していくことで、満足度の向上を目指す。

2 外部評価委員等によるコメント

- この評価シートでは、学芸員一人ひとりの自己研鑽（研究）や社会教育（実践）が数字として表れてこない。そこが重要である。
例えば、各学芸員の研究テーマなどを評価シートで発信できるとよい。
- 自己評価に至った経緯を PowerPoint で見せるなど、具体的な活動を紹介してもらえると、印象にも残るし、自分たちもそれを外部に紹介もできる。
- 観光の目線から話をすると、パンフレットなどの広報物が素晴らしいと思っている。長瀬の商店街に掲示されていてよく目立っていると感じる。
- 評価項目に「研究」が入ってこないのは、そこに予算が使われていないからだという印象を受けてしまう。
資料収集、研究、その成果をアウトプット（展示や普及活動）、この流れがとても大事で、そこに力点を置かれていないと感じてしまう。
- 長瀬の良さや博物館の持つ大事な側面を理解していない保護者が増えていると感じる。地域の方や保護者の方に長瀬を理解していただき、博物館にも足を運んでもらえるように、連携して取り組めるものは一緒にやっていきたい。
- 評価シート中の目標値に学校の数を出しているが、校数が今後減っていくことが予想される。割合で出していくなどの工夫が必要だ。
- 資料の収集と保管は博物館の根本的な業務であり、資料庫の充実は必須と考える。何とか多くの予算を獲得していただきたい。
- インフレが進んでいるが、入館料が少々安すぎると感じる。見直しについても検討する時期に来ていると感じる。